

世界で日本の美学「侘び寂び」への関心が高まり、フランスでも建築やデザインをはじめとするさまざまな分野で、自由な解釈・利用されている。そのうち、この美学を具現する作品を厳選したハイセンスな侘び寂びのアート・トモスフェールタイアー

（仏語で他所の雰囲気の意味）社の新しい事業だ。その創立者で最高経営責任者（CEO）のティエリー・グルンドマン氏は、日本の侘び寂びの美学と哲学の存在を知る前から、30年以上侘び寂びに情熱をささげている。この展覧会は、同氏と価値観を共有するアートディレクターのダニエル・ロゼンスツローチ氏と共同で実現した。

グルンドマン氏が所有するパリ近郊の元ベルサイユ宮殿の狩猟の館「ル・ドメ・ドゥ・カンカムボワ」内のシヨールーム（1500平方呎）を利用して、ロゼンスツローチ氏による出展者間の仕切りのない洗練されたセノグラフィードで、彼ら独自の侘び寂びの美学を具現する空間をつ

フランスを中心とする欧州諸国のアーティスト、デザイナー、工芸家、ギャラリーなどの40件が出展した。その他に、パリで日本の伝統美とモダンなデザインのコンセプトストア「Ogata Paris」を手掛ける日本の著名デザイナーの緒方慎一郎氏を名誉ゲストとして迎えた。11月29日〜12月2日に開催された展示会の初日は建築家・インテリアデザイナーなどの業者に限定し、それ以外は一

創立者のグルンドマン氏は30年以上侘び寂びに情熱をささげている

般客に開放した。最終日にはパリの有名競売会社のサイトから参加できる競売も開催した。

出展料は一件15000円。入場料は10円（18歳以下無料）。来客者数は約6千人。今後は毎年招待国を選んで展示会を開催し、来年は日本だぞうだ。

（トレンドジャーナリスト

456件の応募があり、

菊地広子

